



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月5日

上場会社名 クオールホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3034 URL <https://www.qolhd.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 敬  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 富樫 豊 (TEL) 03-6430-9060  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	40,550	0.5	1,658	△9.3	1,760	△7.1	1,001	△3.0
2022年3月期第1四半期	40,350	3.0	1,827	214.5	1,895	216.6	1,033	361.4

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 1,002百万円(△2.5%) 2022年3月期第1四半期 1,027百万円(589.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	27.18	—
2022年3月期第1四半期	28.21	—

(参考) EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)

2023年3月期第1四半期 2,832百万円 2022年3月期第1四半期 2,961百万円

のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

2023年3月期第1四半期 1,797百万円 2022年3月期第1四半期 1,807百万円

のれん償却前EPS(のれん償却前四半期純利益/期中平均株式数)

2023年3月期第1四半期 48円77銭 2022年3月期第1四半期 49円35銭

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	98,114	44,450	45.3
2022年3月期	95,984	43,881	45.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 44,406百万円 2022年3月期 43,835百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	14.00	—	14.00	28.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	15.00	—	17.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 記念配当(創業30周年記念配当) 2円00銭

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	85,000	3.9	5,000	19.7	5,000	17.0	3,000	22.2	81.38
通期	180,000	8.3	12,000	21.8	12,000	18.9	6,500	18.4	176.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	38,902,785株	2022年3月期	38,902,785株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,993,309株	2022年3月期	2,057,109株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	36,866,188株	2022年3月期1Q	36,625,807株

(注)自己株式数には、従業員持株会専用信託口の所有する当社株式を含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(その他特記事項)

決算補足説明資料については、適宜当社ホームページに掲載いたします。  
<https://www.qolhd.co.jp/ir/library/supplementarymaterial.html>

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

調剤薬局業界においては、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴う行動制限の緩和等、経済活動の正常化に向けた動きが見受けられましたが、新型コロナウイルス感染拡大による患者さまの医療機関への受診控え及び医療機関の外來診療の抑制の影響は一定程度継続しております。

当社グループではこのような激変した社会においても患者さまにいちばん近い会社であり続けるため、新型コロナウイルスから患者さま・社員を守る経営を最優先してまいりました。全社戦略についてはウィズコロナの時代の中で中期目標を実現するために、「規模の拡大」「利益の最大化」「デジタル化」に全事業一体となって取り組んでおります。

そして、ステークホルダーの皆さまにとって魅力ある安定成長企業となるため、環境、社会、ガバナンスの各分野において、企業価値を向上させる取り組みを継続しております。また、サステナビリティ活動の一環として、患者さまと環境にやさしい薬局を目指して、店舗の緑化運動『Green Smile Project』を行っており、さらに当社グループのサステナビリティ活動を推進するために、2022年4月にサステナビリティ委員会を設置いたしました。

なお、当社は今年創業30周年を迎えます。地域に根差した薬局を目指し、医療継続を信念に事業を続けてまいりました。今後も、『わたしたちは、すべての人の、クオリティ オブ ライフに向きあいます。いつでも、どこでも、あなたに。』という当社グループの企業理念のもと、総合ヘルスケアカンパニーへと前進してまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループ連結業績は、売上高40,550百万円（前年同期比0.5%増加）、営業利益1,658百万円（前年同期比9.3%減少）、経常利益1,760百万円（前年同期比7.1%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,001百万円（前年同期比3.0%減少）となりました。また、EBITDAについては、2,832百万円（前年同期比4.4%減少）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ① 保険薬局事業

保険薬局事業においては、M&A、新規出店及び在宅・施設調剤の推進による規模の拡大、コスト構造改革による利益の最大化、次世代薬局等のデジタル化による患者さまの利便性向上に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間において、出店状況は、新規出店5店舗、事業譲受による取得1店舗の計6店舗増加した一方、閉店により6店舗減少した結果、当事業全体で店舗数は834店舗となりました。今後も付加価値の高い薬局を展開していくために、戦略的な新規出店やM&Aにより規模の拡大を図ってまいります。

薬局運営においては、2022年4月より、処方箋事前予約や健康情報をLINEで提供するサービス『クオールおくすり便』を開始し、利用者数が順調に増加しております。

また、前期より新たな事業の柱として推進している在宅・施設調剤につきましては、在宅調剤の全店実施に向けて取り組むとともに、在宅特化型店舗を増やすことで受け持つ施設数を大幅に増やしてまいります。

業績につきましては、前期に実施したM&Aや新規出店の寄与と、在宅・施設調剤の推進により受付回数が増加した一方、薬価改定及び調剤報酬改定の影響があったことにより、薬剤料単価及び技術料単価が減少いたしました。

その結果、売上高は37,157百万円（前年同期比0.1%減少）、営業利益は2,139百万円（前年同期比6.4%減少）となりました。

#### 【新型コロナウイルス感染症対策】

当社グループは、コロナ禍において「医療の継続」を最優先に薬局の運営を続けております。引き続き全従業員にマスクの着用等の基本行動を徹底し、アクリルパーテーションやオゾン除菌・脱臭器『AIR BUSTER（エアバスター）』を設置する等、感染症拡大防止に最大限努めております。

## ② 医療関連事業

医療関連事業においては、引き続き主力事業であるC S O事業、紹介派遣事業、医薬品製造販売事業、出版関連事業の拡大に尽力し、総合ヘルスケアカンパニーへと前進するための安定した基盤構築を図ってまいります。

C S O事業においては、増加するMR派遣需要に対応するため、幅広い経験を持った人財の採用強化や、専門領域MRの育成プログラムの拡大、継続した教育による質の向上等、医療現場から求められる優秀な人財の育成に注力しております。

紹介派遣事業においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を依然として受けているものの、薬局等への薬剤師紹介派遣需要は回復傾向を見せております。また、健康経営推進への関心の高まりから、産業医・産業保健師の派遣については成約件数及び売上高が引き続き増加しているため、健康経営優良法人の認定取得をサポートするサービスや、ストレスチェックといったコンテンツ提供サービス等、サービスラインナップの拡大に取り組んでおり、事業の拡大に注力しております。

医薬品製造販売事業においては、大手提携製薬企業との共同プロモーションによる売上高が好調に推移しております。引き続き自社製品の販売促進を行うとともに、生産実行システム(M E S)の更新により、製造工程の可視化や作業員への支援を実現し、収益性の向上につなげてまいります。

出版関連事業においては、W e bコンテンツ制作事業や、リアルな講演会とW e b配信のハイブリッド運営にも対応できるコンベンション事業を拡大して、デジタルシフトへの対応を進めております。

その結果、売上高は3,392百万円(前年同期比6.9%増加)、営業利益は349百万円(前年同期比12.3%増加)となりました。

※E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

※C S O : Contract Sales Organizationの略

※MR : Medical Representativeの略

※M E S : Manufacturing Execution Systemの略

(参考) 報告セグメントごとの状況

1. 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	保険薬局事業	医療関連事業	計
売上高			
(1)外部顧客に対する売上高	37,177	3,173	40,350
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	15	64	80
計	37,192	3,238	40,431
セグメント利益	2,286	311	2,597

2. 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		
	保険薬局事業	医療関連事業	計
売上高			
(1)外部顧客に対する売上高	37,157	3,392	40,550
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	17	60	77
計	37,175	3,453	40,628
セグメント利益	2,139	349	2,488

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、98,114百万円となり、前連結会計年度末から2,130百万円増加しております。

これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が2,586百万円減少した一方、商品及び製品が2,141百万円、現金及び預金が1,724百万円、建物及び構築物が277百万円増加したことによるものであります。

② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、53,664百万円となり、前連結会計年度末から1,560百万円増加しております。

これは主に、未払法人税等が2,388百万円、長期借入金が1,770百万円減少した一方、買掛金が5,590百万円増加したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、44,450百万円となり、前連結会計年度末から569百万円増加しております。

これは主に、自己株式が94百万円減少した一方、利益剰余金が474百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,685	18,409
受取手形、売掛金及び契約資産	17,382	14,796
商品及び製品	5,254	7,395
仕掛品	210	182
貯蔵品	118	131
その他	2,648	4,208
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	42,296	45,122
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,315	6,593
工具、器具及び備品（純額）	1,364	1,422
土地	4,893	4,890
その他（純額）	272	245
有形固定資産合計	12,846	13,151
無形固定資産		
のれん	32,339	31,682
ソフトウェア	624	622
その他	273	264
無形固定資産合計	33,238	32,569
投資その他の資産		
投資有価証券	152	156
敷金及び保証金	3,793	3,816
繰延税金資産	2,021	1,673
その他	1,642	1,633
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	7,598	7,266
固定資産合計	53,682	52,988
繰延資産		
社債発行費	4	3
繰延資産合計	4	3
資産合計	95,984	98,114

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,382	23,972
1年内償還予定の社債	808	808
1年内返済予定の長期借入金	7,914	7,379
未払法人税等	2,800	411
賞与引当金	2,326	1,339
その他	3,229	4,879
流動負債合計	35,460	38,790
固定負債		
社債	608	398
長期借入金	13,952	12,181
繰延税金負債	303	303
役員退職慰労引当金	29	30
退職給付に係る負債	640	648
資産除去債務	853	1,077
その他	254	234
固定負債合計	16,642	14,873
負債合計	52,103	53,664
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,786	5,786
資本剰余金	11,276	11,276
利益剰余金	29,798	30,272
自己株式	△3,012	△2,917
株主資本合計	43,849	44,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14	△12
その他の包括利益累計額合計	△14	△12
非支配株主持分	45	43
純資産合計	43,881	44,450
負債純資産合計	95,984	98,114

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	40,350	40,550
売上原価	35,305	35,455
売上総利益	5,044	5,095
販売費及び一般管理費	3,217	3,436
営業利益	1,827	1,658
営業外収益		
受取家賃	8	10
受取手数料	14	28
補助金収入	3	0
受取保証料	14	14
その他	65	87
営業外収益合計	106	141
営業外費用		
支払利息	26	20
その他	11	19
営業外費用合計	38	39
経常利益	1,895	1,760
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	9	5
子会社株式評価損	49	—
特別損失合計	58	5
税金等調整前四半期純利益	1,837	1,755
法人税等	806	755
四半期純利益	1,031	999
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,033	1,001

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,031	999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	2
その他の包括利益合計	△3	2
四半期包括利益	1,027	1,002
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,029	1,004
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響等を含む仮定について重要な変更はありません。